

社会－5（第4学年） 課題について構想を立てて提案する事例
【学習活動の概要】

<p>1 単元名 県の特徴を地域の資源の保護・活用から探る</p>																		
<p>2 単元の見目標 県内において地域の資源を保護・活用している地域の人々の生活の様子を調べて、調べたことを基に地域の資源を観光コースとして結び付ける活動を通して、県の特徴を考えるようにする。</p>																		
<p>3 評価規準 【社会的現象への関心・意欲・態度】 県の地理的位置、地形や産業、県内の特徴ある地域の様子、国内の他地域や外国とのかかわりなどに関心を持ち、意欲的に調べ、自分たちの住んでいる県の特徴やよさを考えようとしている。 【社会的な思考・判断・表現】 他県とのかかわりや位置関係を考えたり、県内の地域の特徴を相互に比較したりして、自分たちの住んでいる県の特徴を考え適切に表現している。 【観察・資料活用の技能】 地図や資料を活用したり、インターネットを活用したりして、県の様子について必要な情報を集め、読み取り、作品にまとめている。 【社会的現象についての知識・理解】 自分たちの住んでいる県や市の地理的位置、47都道府県の名称と位置、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置、県内の特徴ある地域の人々の生活の様子、県内の人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわりを理解している。</p>																		
<p>4 教材 本単元のねらいは、地域の資源を保護・活用している地域の調べを通して、県の特徴を考えることにある。県の特徴をつかませるために、県のよさが伝わるようなガイドブックをつくらうという課題を設定した。まず、2つの事例地の様子を学び、その知識を活用して、県内の5つの事例地を課題選択して学んでいけるよう、単元の工夫を行った。また、県の特徴をはっきりとつかませるために、2泊3日という設定の中で、県の特徴をつかむために必要と思われる5つの条件（自然環境、交通網、伝統や文化、産業、人の営み）を満たす観光コースを3日分つくることとした。このことにより、今まで学んできたことを有機的につないで県のよさがはっきり分かるコースができるのではないかと考えた。また、本時の終末にコースの紹介文を書くという言語活動を取り入れることで思考力の育成を図ることをねらった。</p>																		
<p>5 主な学習活動 (1) 単元の指導計画（全30時間）</p> <table border="1" data-bbox="188 1249 1422 1666"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次</td> <td>○県の地理的位置について調べ、日本地図に表そう。(2)</td> <td rowspan="2">・八方位を用いて他県との位置関係や日本全体における位置を説明させるようにする</td> </tr> <tr> <td>第2次</td> <td>○県の特徴を紹介するガイドブックをつくる計画を立てよう。(5)</td> </tr> <tr> <td>第3次</td> <td>○地域の資源を保護・活用してまちづくりをしている丸亀市、小豆島町について調べよう。(12)</td> <td rowspan="2">・よさとその根拠を併せて説明させるようにする。 ・概念図を基にお互いの考えを交流しながらまとめていくようにする。</td> </tr> <tr> <td>第4次</td> <td>○地域を広げて調べ、県のよさを伝える観光コースをつくらう。(6) 本時4～6/6</td> </tr> <tr> <td>第5次</td> <td>○県は他の地域や外国とどのようにつながっているのか調べよう。(5)</td> <td rowspan="2">・地図を使って説明させる。</td> </tr> <tr> <td>発 展</td> <td>○地域を広げ香川県のことをもっと調べよう。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本時の学習（23～25/30）</p> <p>①目標 県内の特徴ある7地域を5つの条件（自然環境、交通網、伝統や文化、産業、人の営み）を基に3つの観光コースにまとめるとともに、それを県の特徴として紹介文にまとめることができるようにする。</p> <p>②展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時までに学習してきたことを振り返り、本時のめあてをつかむ。 ○グループで考えたコースを交流し、よさが伝わるコースについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのコースについて紹介する。 ・2つのグループが協同して新しいコースをつくる。 ○全体で交流する。 ○旅行会社の方の話を聞く。 ○コースの紹介文を書く。 		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次	○県の地理的位置について調べ、日本地図に表そう。(2)	・八方位を用いて他県との位置関係や日本全体における位置を説明させるようにする	第2次	○県の特徴を紹介するガイドブックをつくる計画を立てよう。(5)	第3次	○地域の資源を保護・活用してまちづくりをしている丸亀市、小豆島町について調べよう。(12)	・よさとその根拠を併せて説明させるようにする。 ・概念図を基にお互いの考えを交流しながらまとめていくようにする。	第4次	○地域を広げて調べ、県のよさを伝える観光コースをつくらう。(6) 本時4～6/6	第5次	○県は他の地域や外国とどのようにつながっているのか調べよう。(5)	・地図を使って説明させる。	発 展	○地域を広げ香川県のことをもっと調べよう。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点																
第1次	○県の地理的位置について調べ、日本地図に表そう。(2)	・八方位を用いて他県との位置関係や日本全体における位置を説明させるようにする																
第2次	○県の特徴を紹介するガイドブックをつくる計画を立てよう。(5)																	
第3次	○地域の資源を保護・活用してまちづくりをしている丸亀市、小豆島町について調べよう。(12)	・よさとその根拠を併せて説明させるようにする。 ・概念図を基にお互いの考えを交流しながらまとめていくようにする。																
第4次	○地域を広げて調べ、県のよさを伝える観光コースをつくらう。(6) 本時4～6/6																	
第5次	○県は他の地域や外国とどのようにつながっているのか調べよう。(5)	・地図を使って説明させる。																
発 展	○地域を広げ香川県のことをもっと調べよう。																	

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第3学年及び第4学年の内容(6)では、「県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする」、「ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」と示されている。また、指導計画作成上の配慮事項として「観察や調査などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること」が示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現することができるようにする」ことが示されている。

本実践の事例地選定に当たっては、次の二つの視点を大切にしたい。その一つは、「社会の形成に参画する人々の知恵や汗が見えてくる」事例であるかどうかという点である。地域の活性化やよりよい地域づくりに協働して取り組む人々の生き方に触れ、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことをこの学習でねらいたいからである。その二つは、「県の特色を語るのにふさわしい」事例であるかどうかという点である。

【言語活動の充実の工夫】 一観光コースを考え、そのよさを紹介する一

児童は、前時までに五人一組になって観光コースを考えてきた。この五人組は、課題選択で五つの町を調べた際、それぞれの町を調べたものが一ずつ集まって構成している。

観光コースを考えさせるに当たっては、次の二点を工夫した。

- 次の五つの条件を踏まえることを条件とした。
 - ① 香川県らしい自然環境のよさを感じられるか
 - ② 伝統や文化のよさを感じることができるか
 - ③ 香川県らしい産業のよさを感じられるか
 - ④ 地域の資源を大切に保護し、それを活用している人々の取組が見えるか
 - ⑤ 交通網を利用することで見学ができるか
- 「思考図」を使って考えさせた。



五つの条件により、どのように組み合わせればよいのかという思考が働く。その組み合わせに活用したのが、右上の写真のバブルマップである。中央に自分たちの調べた市や町の名前を入れ、そこから外に向かっていろいろな情報を書き出しておく。その情報は、五つの条件にかかわったものである。そして、七つの市や町のカードがそろった段階で、組み合わせていく。このことにより、何となく組み合わせずという状況から脱却し、条件に基づいて組み合わせるという思考操作を経て、観光コースをつくることができた。右の写真は、前時までに子どもたちがつくりあげたコースである。



本時では、二つのグループが交流し、よりよいコースをつくることを目的にする。同じようなコースを考えているグループを交流させることによって、自分たちの考えるコースの充実が図れるよう工夫した。

前時の終わりに、一日のコースの紹介文をノートに書かせてみたが、順を追って書かれていたものの、主張したいことが明確になっておらず、羅列的になってしまった。そこで、本時では「さあ、書きましょう。」と一いきなり書かせるのではなく、授業の中で、思考図を取り入れながら、一日のコースを考え、授業の終わりには、その思考図を使って、コース紹介を書くという授業を構成した。

その際に活用したのが、左の写真のような思考図である。具体的な事実から自分たちで上位概念を生み出し、構造的な文章が書けるように支援した。



これによって、単なる観光地の羅列的紹介文ではなく、地域のよさをアピールする紹介文にすることができた。社会科において言語活動の充実を図るためには、このように児童が事実を並べながら思考を深めるツールが必要であると考える。